利用者などの声に応える施設整備を

利用者などの要望、順次検討

浅川　修一（日本共産党）

問 第一小学校が新校舎で授業を開始してから3カ月がたちました。設計段階で気づかないことは当然あります。今行っている校庭整備で新たに生かすことや、変更などがあるのかを伺います。また、柴崎学習館の地下の学習室は、メールが届かない、絵画などの展示をした場合に照明が暗い、施設周辺からの案内板がないために場所がわかりづらいなど、利用者から改善の要望があります。こうした声に応えていただきたい。見解を。

答 第一小学校の校庭整備については、当初は校庭のトラック内を芝生化する設計でしたが、芝生の養生に一定期間かかることから、校庭の周囲部分を芝生化することに変更しています。子どもたちの安全のために学校から要望があるものについて、順次検討し、環境面も工夫しながら一つ一つ対応を進めています。柴崎学習館へのさまざまな要望で、改修などが必要な件は、関係部署へ情報を上げ、今後の対応を具体的に協議していきたい。

運動公園を子どもが遊べる場に

今後検討していきたい

高口　靖彦（公明党）

問 今の子どもたちは、公園でも自由に遊べません。体力向上のために、社会が奪ってしまった遊び場や運動できる場を、子どもたちへ返すことが大事だと考えます。市内にある多くの運動公園の空いている時間を有効利用し、子どもたちが自由に体を使って遊べるようにしていただきたい。子どもたちが競技の勝敗にこだわらず、運動を楽しみ、好きになることが大事です。本市でもこの考え方を工夫して実践していただきたい。

答 平日、運動公園が活用されていない状況が多いことは確かです。子どもたちの体力向上に向けて、運動公園をどのように活用するかについては、今後検討していきたい。また、発達段階にある子どもたちに多様な運動を体験させることは重要だと考えています。体育授業及び休み時間などにおける遊びを通じて、バランスのとれた体力向上を図っていきたい。そのためには家庭との連携も必要であり、引き続き家庭への啓発を行っていきたい。

砂川七番交差点　渋滞の解消を

都に要望していく

佐藤　寿宏（たちかわ自民党・安進会）

問 砂川七番交差点が改良された当時、五日市街道西側には右折ラインが作られましたが、東側には右折ラインができないまま工事が完了し、地域住民は残念な思いをしました。現在でも、この交差点から砂川八番の先まで車が混雑しており、住民は渋滞解消を待ち望んでいます。現在、五日市街道の南側で建物が撤去され、買収しやすい状況になっています。今後、この渋滞に対しどのような取り組みをするのか、市の見解を伺います。

答 砂川七番交差点については、東京都の事業として、平成11年度に改良工事が完了していますが、都がここで「第3次交差点すいすいプラン」を策定していることから、再度、砂川七番交差点の改良を要望しました。これに基づき東京都が交通量調査を実施しましたが、砂川七番交差点は採択基準を満たさず、残念ながら不採択となっています。今後大型開発が進む中で、交通量増加が十分予想されるため、渋滞緩和策を都に要望していきます。

トイレの教育と環境整備を

計画的に改修に取り組みたい

山本　みちよ（公明党）

問 学校のトイレで用を足せず、家まで我慢した子どもがいるという話をいまだに聞きます。当たり前にトイレに行けるよう、トイレ教育に力を入れていただきたい。トイレのことは、ある種、人権の問題でもあり、環境整備にも積極的に取り組む必要があると考えます。衛生面もそうですが、ほかにも、子どもたちが色を塗って明るい環境にするなど、お金をかけなくてもできる工夫があるのではないでしょうか。見解を伺います。

答 トイレについては、ご指摘のとおり人権的な配慮も必要な問題だととらえています。特に低学年は、環境が大きく変わる中で、トイレが原因で学校が嫌いになってしまったり、つまずいたりしてしまった場合、大変大きな問題につながると認識しています。公共施設保全計画に基づき、対象校のトイレは湿式から乾式、和式から洋式へ、順次整備しますが、それとは別に、状況を精査し、計画的にトイレの改修に取り組んでいきたい。

砂川七番交差点付近

柏保育園

見影橋運動公園

待機児について今後の保育環境は

新制度を効果的に運用する

梅田　春生（民主・市民フォーラム）

問 認可保育園に入れず、認証保育所や家庭福祉員やグループ保育室へ預けられたり、それらも利用できずベビーホテルなどを利用する待機児がいます。この待機児は、立川市認証保育所等利用者負担軽減補助金もらえず、高額な保育料を負担しています。これについて、今後市の取り組みはどうなっていくのでしょうか。また、平成27年4月から子ども・子育て支援新制度が導入されますが、現状とどのように変わるのか、伺います。

答 新制度では、家庭福祉員やグループ保育室の利用者の負担は認可保育園と同様に所得に応じた負担になるため、立川市認証保育所等利用者負担軽減補助金の対象は、認証保育所のみとなります。補助金の対象とならない認可外の保育施設については、給付対象事業へ、認証保育所は認可保育園への移行の相談に応じています。待機児の解消に向け、保育の確保策を進めるとともに、保育の質の向上を図っていきたい。

自転車保険の義務化を

都などを注視し研究する

太田　光久（民主・市民フォーラム）

問 最近自転車事故が多発していますが、自転車保険の加入率は20％から30％程度と言われています。自転車事故の裁判の判決で支払い命令が下っても払えず、自己破産する人が増えているなど、事態は深刻です。交通安全の立場からも、事故による生活破綻をなくすためにも、自転車に乗る市民全員が保険に入ることを求めたい。自転車保険の義務化について検討していくのか、都の取り組みであれば要請していくのかどうか、見解を。

答 都では、平成25年7月に東京都自転車の安全で適正な利用の促進に関する条例を施行し、自転車利用者の保険加入を努力義務と規定しています。本市では、数年前から広報やホームページ、交通安全講習会などで自転車保険の重要性をお知らせしてきましたが、引き続きさまざまな機会を通して啓発に努めていきます。自転車保険の義務化については、都の条例施行後の状況や、他市の取り組み状況などを注視しつつ研究していきたい。

西砂町地域に常設の子育てひろばを

検討を進めている

門倉　正子（公明党）

問 子育てひろばは、子育て中の保護者の不安解消や子どもの交流促進を目的に、現在12カ所と広がり、保護者にとって育児相談や情報収集できる貴重な場として存在しています。近年、西砂町地域は宅地の開発が進み、戸建て住宅が増え、子育て世代が増加しています。今後さらに宅地造成が進む西砂町地域に、子育て支援の環境整備が急務だと考えます。この西砂町地域に子育てひろばの常設を要望しますが、市の見解を伺います。

答 ご指摘のとおり、西砂地区において、子育てひろばを設置してほしいという子育て中の保護者のニーズが高いことにつきましては、中里会館で実施している出前の子育てひろばの利用状況などにも表れています。この地区に常設の子育てひろばを設置することの必要性は十分に認識しており、現在、設置場所や、子育てひろばを設置するために必要な経費などについて、具体的な検討を進めているところです。

国民健康保険料値上げ　暮らしていけない

一定の負担はやむを得ない

上條　彰一（日本共産党）

問 これ以上の国民健康保険料の値上げには耐えられないとの声が上がっています。本市では3年連続で値上げを行い、シミュレーションでは子育て中の4人世帯で、近隣市と比べ年間10万円以上も負担が多くなっています。平成26年の保険料も三多摩26市の平均より一人当たり約1万9千円高く、負担の重さは異常です。賦課不足額は原則加入者の保険料で賄うやり方を撤回し、値上げをやめ、また値下げすべきだと考えますが、見解を。

答 国民健康保険制度は、加入者相互で助けあう共助の考え方が根幹にあり、加入者の保険料で賄うことが社会保険方式の基本です。一般会計で赤字補てん的なことをすれば保険料は安くなりますが、将来的に財政がもつのか、また、世代間の公平を考えた場合、現役世代に負担させることが本当にいいのか、議論が必要です。もともと東京都の保険料が非常に低い水準であることを勘案すれば、一定の負担はやむを得ないと考えています。